

名古屋港長期構想の策定について

2025年1月27日

第 1 回 名古屋港長期構想検討委員会

【長期構想とは】

- 名古屋港の長期構想は、**概ね20年から30年先の目指す将来像**やそれを実現するための**施策の方向性**を示すもので、港湾管理者である名古屋港管理組合が策定するもの
- 名古屋港の開発、利用及び保全など、**さまざまな主体の諸活動の指針**として活用されることを期待するもの
- 概ね10年から15年を目標年次とした港湾整備のマスタープランである港湾計画や、個別の具体計画につながるもの

【策定の背景】

- 名古屋港では、2007年に概ね20年先を目標年次とする長期構想「名古屋港の針路」を策定した
 - 近年、世界的な脱炭素化の推進やAI、IoT等の情報通信技術の進展など、**名古屋港を取り巻く環境が大きく変化している**
- 
- これらの変化に対応しつつ持続的な発展を実現するため、**名古屋港の将来に向けたビジョン（新たな長期構想）を示していく必要がある**

新たな長期構想の策定に向けた想い

新たな長期構想は、名古屋港に関わる人々が名古屋港の将来に向かって行動するための指針であると同時に、**名古屋港に関わってほしい人々や関心をもってほしい人々に対するメッセージ**としたい

そのために…

- あらゆる人々が共感できる指針が示されているべき
- 長期的な視点で、あらゆる人々が望む名古屋港の姿が示されているべき
- 理想に終わらない、現実を踏まえた具体性をもった取組の方向性が示されているべき



これらを示すことで、名古屋港に対して**希望や期待がもてるビジョン**になるとともに、名古屋港に関わる人々が**それぞれの役割を認識し、新しい名古屋港の実現に向けた行動につながるビジョン**としたい

このような新たな長期構想を共通の旗印に、名古屋港が挑戦し続け、独自の魅力を伸ばすことで、中部圏、さらには**日本をリードする港に成長していきたい**

【長期構想の構成】

長期構想の位置づけ

長期構想の特性、策定の背景

名古屋港の現況

歴史、背後地域の特徴、名古屋港の機能

環境変化

名古屋港を取り巻く世界や国内の環境変化

ポテンシャル

背後地域や名古屋港が有するポテンシャル

基本理念

将来を考えるうえで拠り所となる基本的な考え方

名古屋港の将来像

名古屋港が将来ありたい姿

施策の方向性

将来像の実現に向けた方向性と施策の具体イメージ

空間利用のゾーニング

空間利用の方向性

長期構想の実現に向けて

実現に向けた取組や体制づくり等

【検討の流れ】

名古屋港の将来を考える会（2023年度）

新たな長期構想の検討に向け、ポートアイランドを含めた名古屋港全体の将来像について、関係者と意見交換を行った

長期構想検討委員会（2024年度～2025年度）

概ね20年から30年先の名古屋港の将来像やそれを実現するための施策の方向性について検討し、長期構想の策定に関して助言を行う

長期構想
の位置づけ

名古屋港
の現況

環境変化

ポテンシャル

現長期構想の点検・検証

目指す方向性

- ・ 長期構想の検討にあたっての基本的な考え方
- ・ 基本理念の考え方
- ・ 名古屋港の将来像の考え方
- ・ 施策の方向性の考え方

名古屋港長期構想（骨子案）

- ・ 基本理念
- ・ 空間利用のゾーニング
- ・ 名古屋港の将来像
- ・ 長期構想の実現に向けて
- ・ 施策の方向性

名古屋港長期構想（中間案）

名古屋港長期構想（最終案）

2025年1月27日

第1回長期構想検討委員会

目指す方向性

2025年4月頃

第2回長期構想検討委員会

名古屋港長期構想（骨子）

2025年8月頃

第3回長期構想検討委員会

名古屋港長期構想（中間案）

2025年9月頃

パブリックコメント

2025年12月頃

第4回長期構想検討委員会

名古屋港長期構想（最終案）

2026年3月頃

長期構想策定・公表